

平成 22 年度

事業所名 : グループホーム いわいずみ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000047		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホーム いわいずみ		
所在地	〒027-0508 岩手県下閉伊郡岩泉町尼額字下坪41-2		
自己評価作成日	平成 22 年 9 月 3 日	評価結果市町村受理日	平成 22 年 11 月 24 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0393000047&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 22 年 9 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山や川など自然に囲まれ窓から見える風景は季節感を感じ四季の移り変わりを実感しながら生活しています。
近隣住民の方々には、犬の散歩の時など遊びに寄っていただいたり、入居者様の散歩などに声をかけていただき一緒に散歩に同行していただいたり、また野菜や山菜など頂き支えられて生活しています。入居者様と職員のコミュニケーションを大切に一人ひとりのペースで笑顔の耐えない明るい雰囲気の中で安心して生活出来るように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人のシルバーグループでは同種の事業所を多数運営しており、各事業所が取り組みを紹介し合い、競い合う環境のなかで生じるサービス向上の意識を背景として、全職員の協議による当該年度の目標を掲げて実践に取り組んでいる。
自治会に加入しての積極的な交流により地域の一人として認知されているほか、利用者の姿が見えると声をかけられるなど、良好な関係がつけられている。運営推進会議のメンバーも広範で参加のしやすさにも配慮がなされており、利用者家族は、地域の積極的な協力を目的に安心感を深めている。また家族や地域に向けた広報誌は丁寧に作られており、家族から非常に好評のほか地域でも楽しみにしている人たちがいる。山や川に包まれた中で自然環境からも地域のまとまりが感じられるなか、地域との連帯感を育んできた事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム いわいずみ

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目に付く所に掲示し、部署目標も皆で話し合い決め共有し実践につなげている。	全職員の話し合いによって「一緒に達成感を」「家族とのつながり」といった目標を掲げ、職員間で共有しつつその実現に向けて日々実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し回覧板や広報の配布時会話を楽しんだり、地域の行事に参加したり子供会との花火大会を開催し交流も図り、野菜などの差し入れもあり交流を深めている。	尼額(あまひたい)地区自治会に加入しており、掃除等に利用者や職員が参加するほか、子供会と行事(花火大会)を共催するなど積極的交流を図っており、地域とも馴染みの関係が築けている。	地域の一員としての良好な関係づくりが進展しており、地域の積極的な協力や支援が利用者等の安心と事業所の信頼に繋がっている。管理者はじめ職員の努力を評価しつつ継続した取り組みを期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームの広報を年4回発行し回覧している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で現状やホームの活動を報告している。参加者も増え活発な意見交換が出来るようになってきた。	メンバーは町民課長、部落会長、民生委員、消防分団員、近隣者と広範で意見交換も活発である。誕生会とセットで日程を調整しており、地域の協力を目にした家族の出席者は安心感を抱いている。	誕生会のない時は他の行事とのセットを工夫するなど運営推進会議に対する参加者の親しみやすさに工夫がなされている。今後も継続した取り組みに期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に参加し現状報告をしたり、推進会議に参加していただきグループホームの様子など伝え行政の考えなど聞き協力関係を築いている。	地域ケア会議の場を通じて報告や相談をしているほか、運営推進会議のメンバーとして意見交換できるため情報を共有でき、常に気にかけてもらえる良好な関係が築かれている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会等で意識を全職員で確認し取り組んでいる。	異食が多い場合等、つい「だめ」という言葉が出ることもあり、身体拘束につながる場面を職員で検討している。また、研修参加者の伝講等により意識を共有し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスや勉強会を持ち全職員で取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前入居していた利用者様が活用していたことで支援内容は一応把握できており勉強会等で再認識している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行い不安や問題点がないように納得を得られている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを取ったり推進会議の出席時や面会時意見や要望を聞き反映させている。	運営推進会議への家族の出席率向上の工夫をしたり、ケアプランの話し合いや業務連絡時のほか広報の通信欄等を活用して家族の意見や要望を聞く機会を設け、運営に反映させるよう努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談やカンファレンス等で意見や提案を聞く機会を設け取り入れている。	職員個々との面談やカンファレンス等で業務改善や研修希望など、意見を表しやすい環境づくりと反映に努めている。また自己評価を全員で行うことにより、日々の実践の意味づけができたと考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に意見を聞きいれカンファレンス等で提案など聞く機会を設け向上心を持って仕事ができるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加の機会を設け向上に努め実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会、交換研修、会議など参加し情報交換や意見交換行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを大切にしながら本人の要望に耳を傾け信頼関係を築き生活して頂く為、全職員で共有し努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の要望を聞き常に連絡を取り信頼関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援に臨機応変に対応できている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に出来る事を見つけ共に楽しんで過ごせる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	在宅の様子やグループホームでの様子など情報を共有し行事等参加いただき電話や面会等も大切に関係作りを築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や自宅への外出・外泊等支援に努めている。	家族との電話連絡を取り持つほか、病院への見舞いや彼岸の墓参り、自宅の見回りなどにも、職員の対応により利用者の意向を尊重し支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士関わりあいが耳の遠い事で孤立しないように仲介に入り利用者同士の関係を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後家族より電話や手紙等頂き次のサービスの為の相談や情報を頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の活用や本人の希望・意向の把握に努め職員全員で検討している。	センター方式の活用と併せて利用者と職員の会話を大事にし、「入居者の声に耳を傾け優しさのある手でコミュニケーションを図る」という22年度の事業計画目標の実践に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族より話を聞きカンファレンスやセンター方式の活用などを通してこれまでの生活等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子等観察し現状の把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族より要望を聞き日頃の入居者の訴え等より思いなど、くみとり計画をたてている。	本人の願いを意識できるよう、利用者の日常会話で話された言葉をそのまま希望として記載している。健康面や介助の視点以外にも家事や草取りなど、本人の生活意欲を支えるための内容が検討されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	チャートや日誌チェック表など申し送りやカンファレンスで情報を共有し計画・見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望に応じたその時々状況にあわせて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々を支えられ見守られながら安全に暮らしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族との連携や病院スタッフとの連携で適切な医療を受け支援している。	精神科と皮膚科の家族対応を除き、かかりつけ医は協力病院であるため、情報交換もしやすく、利用者の状況もよく理解を得られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	通院録等の記録など情報を共有し定期受診時、看護師等に相談し適切な支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換や相談、連絡を取り合い安心できる治療が出来るよう病院関係者との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	これからの家族の意向を聞き、相談し十分に説明し、方針を共有しながら関係者と共に取り組む。	職員の半数は、利用者が亡くなる直前まで真摯な対応をした豊富な経験をもっている。看取りについては家族等の意向等を踏まえた対応をしたいとしている。具体的には家族と話し合いを行い、対応方針を共有しながら取り組みたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	講習会や訓練、勉強会等で実践し身に付けている。AEDも設置済みである。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々にも避難訓練に参加頂き協力体制が出来ており安全に暮らしている。	近隣住民や地域消防団との協力関係が得られた中で定期的な訓練を実施している。訓練は何回やっても課題が残り、意見もあることから、一度実際の夜間に訓練を実施してみたいとの考えを持っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員言葉や対応に自覚を持って気を付けて対応している。	他を気にしたり、他に知られたくないという利用者もいるため、注意をそらしたり目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮しながら誇りやプライバシーを損ねることのないよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望があれば会話の中で決定できるような支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを大切に無理強いしない支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみや季節に合った服装など好みの物を選んだり化粧など支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の量や好みのメニューを入れ調理、盛り付け食器拭き等一緒に行っている。	食器をプラスチック製から陶器製に替え、盛りつけも工夫するなど、不公平感をなくし見た目でも食事が楽しめるよう配慮している。また、バーベキューや職員と一緒に外食ドライブなど好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりを日々記録し状態を把握し不足時声がけをし支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとり口腔ケアを行い口腔内のチェックをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり排泄チェック表で確認し早めの声がけや、間隔等空いている状態に声がけし、見守りを心がけ支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスのとれた献立を作り食物や水分にも工夫し、排便チェックを行い体操なども行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの要望にあった温度やタイミング等合わせて入浴できるよう支援している	入浴は、毎日午後としているほか、随時のシャワー浴にも対応している。利用者には声をかけられたいとの意識もあることから入浴の声かけをしている。なお、職員の努力もあって入浴を嫌がる利用者も改善している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせ休息や睡眠が出来るように支援している。夏はクーラー・扇風機、冬は湯たんぼエアコン等使用し快適に眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院より薬の説明書は見やすい所に入れ作用、副作用、用法、用量の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの希望に応じて買い物・ドライブ草取り花の水やり等気分転換の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ等戸外に出られるよう支援している。	地域・近隣住民とも馴染みになり、散歩や買い物時には声をかけてくれる。桜・海・紅葉など四季を通じて見所が豊富であり、全員でのドライブが楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は希望で自己管理や事務所で管理しているが、欲しいものや購入したい時など使えるようにし、使いすぎにも注意している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で家族に電話を入れたり、代理での対応など支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や、装飾品、家族との写真を貼ったり、太陽が入る天窗の光よけなど快適に生活できるよう工夫している。	ホールは、天窗からの採光で明るく、季節の花が飾られ、事務室からは全体が見渡せる。休憩時にはリハビリ体操を行い五感刺激等の工夫をしている。調査当日は、十五夜で団子づくり、ススキや萩、差入れの栗等を飾り楽しんでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー・椅子等置き場所を工夫し、利用者同士楽しく過ごす事が出来るよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好きなものを飾ったり、居心地のよく過ごせるよう支援している。	居室には、仏壇を置いたり、家族の写真を飾るなど、それぞれ利用者が安心して居心地よく過ごせるよう工夫されている。枕元には職員手作りの眼鏡ケース兼用の誕生日メッセージが飾られ職員の優しさが感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室など分かりやすく床等には余計なものを置かずバイヤフリーで安全に過ごせるようになっている。		